

導入事例

Case Study

EC サイト向け BI ツールを「VMware vCloud® Air™」に構築 柔軟にリソースを追加できるサービス基盤で顧客拡大に対応



商業施設の統合管理に特化したクラウド型管理アプリケーション「MallPro（モールプロ）」を中核商材として、システム開発・販売事業やオペレーション業務請負事業を展開する株式会社イースト（以下、イースト）は、新規事業として成長著しい EC サイト管理者向けのクラウド型 BI ツール「EC Driver」を開発、サービスを提供するクラウド基盤に「VMware vCloud Air」を採用しました。



効果と課題



株式会社イースト
代表取締役
長島 秀晃 氏

課題 新規事業分野であるため顧客数の増加やサーバリソースを事前に見積るのは困難でした。

効果 「VMware vCloud Air」は柔軟にリソースを調整できるので将来の顧客拡大にも対応可能です。



株式会社イースト
事業推進本部
BIソリューション事業室
鈴木 隆二 氏

課題 クラウドサービス立ち上げに必要なインフラ構築エンジニアのリソース不足を懸念していました。

効果 「VMware vCloud Air」は使いやすい管理画面があり手軽に環境構築が可能なのでインフラ構築エンジニアへの負荷はわずかでした。

課題 新しいサービスを成功させるために、顧客への提供価格を低く抑える必要がありました。

効果 「VMware vCloud Air」は顧客を新規追加する際の導入コストが低く、設備投資等の全体コストを圧迫しません。

導入の背景▶ 顧客ターゲットを商業施設から EC サイトへ拡大

大型商業施設の運営会社やテナントに特化して売上管理、請求業務、グループウェア機能などを提供するクラウド型管理アプリケーション「MallPro」の開発・販売を手掛けるイーストは、既存顧客からの要望や市場拡大の予測に基づいて EC サイトの運営者向けにクラウド型 BI ツールを提供する新規事業に乗り出しました。

従来の商業施設向けクラウドサービスとの大きな違いは想定する顧客数だったと長島 秀晃氏は語ります。「既存の『MallPro』は約 140 施設がご利用中ですが、EC サイト事業の『EC Driver』では

300 社以上のお客様が使われることを想定しています。ご利用社数の増加曲線を事前に予測することや、ご利用各社様が分析対象とする日々の販売記録がどれくらいのデータ量に相当するのかも事前に見積るのは困難でした」

こうした状況を踏まえ、「EC Driver」を稼働させるサーバ環境としてリソースを柔軟に変更できるパブリッククラウドの採用を検討したといいます。

選択のポイント・・・▶ リソースの増加を柔軟に行えるクラウド基盤

「いくつか代表的なクラウドサービスを検討した中で『VMware vCloud Air』を評価した点は、Web ブラウザで操作する管理ツールの画面が直感的で扱いやすい点です。2～3時間のトレーニングですぐに使いこなせるようになりました。リソース追加も容易で、将来的にストレージ容量を増加した時のコストメリットが大きいことも分かりました」と長島氏は評価ポイントを挙げます。同社の「MailPro」はASPサービスの提供環境にVIEWMウェア社の仮想化技術を使って運用しているのでエンジニアに対する教育コストは最小限で済みます。

導入の概要と効果・・・▶ 「EC Driver」で顧客の課題を解決

ECサイトを運営する会社のほとんどが複数のオンラインショップを開設しています。各オンラインショップでの日々の売上やユーザ動向など、ECサイト運営における膨大でさまざまなログデータを「EC Driver」に格納し、データを詳細に分析。現在の課題を顕在化して改善シナリオを提示するという一連の分析フローを視覚的に表現するのが「EC Driver」の特長です。

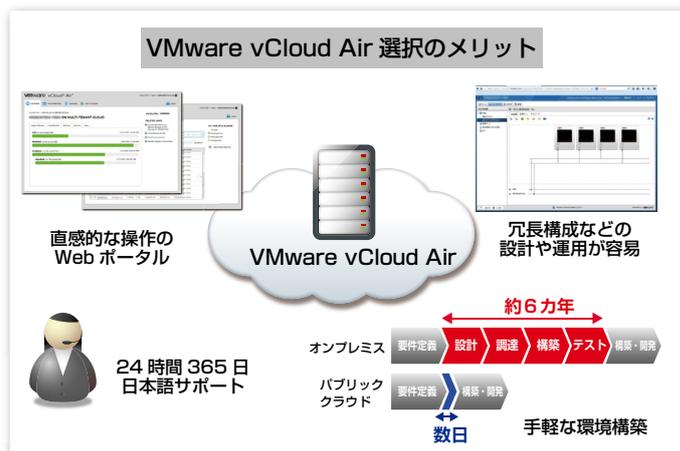
「機能を単体で提供するものではありません。分析から改善まで一連の流れをユーザインタフェースとして提供することが利用者目線に立ったツールなのだと考えています」と長島氏は強調します。

「EC Driver」は、運用開始後も利用者やコンサルタントのフィードバックをもとに機能改修を継続して実施するオープンイノベーションを目指しています。「運用開始後に備えて当初から柔軟なカスタマイズが可能な設計にしています。また改良版のシステムはオンプレミスのVMware環境で検証し、その後本番環境の『VMware

「EC Driver」の開発責任者である鈴木 隆二氏は別の視点から「VMware vCloud Air」を評価しています。「オンプレミスの環境で新規サービスを立ち上げるにはハードウェアやソフトウェアのセットアップ、ネットワーク設計や冗長化構成、ロードバランシングなど多くの業務が発生し、インフラ担当のエンジニアに相当の負荷がかかります。ところが『VMware vCloud Air』は洗練されたユーザインタフェースとなっていて、これらの業務を円滑に実行できるのに驚きました。担当したエンジニアは立て込んでいたオンプレミス業務の合間に作業を完了できたと言います。

vCloud Air』へ移行させるハイブリッド機能を活用しています。一般的な開発では、テスト環境から本番環境にシステムを移行させると予期しないトラブルが顕在化することは多いのですが、『VMware vCloud Air』ではそうした事態はほとんど起こらないことも評価しています」と鈴木氏は語ります。

「VMware vCloud Air」は標準で仮想マシンの冗長化が提供されているほか、高性能なバックアップソリューションである「Arcserve® Backup」を導入することで、サービスを止めずにOSを含めたシステム全体をバックアップできるのでBCPの観点からも信頼できます。



導入したサービス

「VMware vCloud Air」はVIEWMウェア社がグローバルで提供しているハイブリッドクラウドサービスで、プライベートクラウドとパブリッククラウド双方の管理を共通化し、クラウド間でのアプリケーションの移行や連携を自由に行える機能を提供します。サーバリソースのほか、クラウド間でアプリケーションをスムーズに移動可能にするために必要な仮想ネットワークやセキュリティコンポーネントを備え、単一の管理ツールを提供することで、仮想マシンの自由な移行やクラウドをまたがったアプリケーションの連携を可能にします。

今後の展開・・・▶ ソフトバンクと連携したビジネス展開

「新しいことに挑戦すると新しい知見を得られる。これは重要ですよ」と語る長島氏。今回のパブリッククラウド採用によって得られたノウハウにより、現在オンプレミスで運用しているいくつかのサービスを「VMware vCloud Air」へ移行させることも検討しているといいます。

「EC Driver」の拡販が本格的に開始され、ソフトバンクはクラウドサーバ基盤「VMware vCloud Air」を提供するほか、このソ

リューションの販売パートナーとして小売企業や商業施設への営業活動を展開していきます。「ソフトバンクは多くのグループ企業を抱える複合企業です。商業施設に特化したビジネスノウハウを持つ当社のビジネスを拡大するために、ソフトバンクグループとの緊密な関係は非常に心強いと感じています」と長島氏は今後の展開を語ります。

株式会社イースト

本社：東京都港区赤坂1丁目7番1号 赤坂榎坂森ビル2F

設立：1997年10月

資本金：2,000万円

従業員数：640名(2015年4月現在)

概要：自社開発した商業施設向けテナント統合管理システム「Mailpro」をはじめとするシステム事業、商業施設からの業務委託による各種オペレーションサポート業務、販促戦略の企画から制作、運営、分析の各ステージをサポートするセールスプロモーション事業など、商業施設向け事業を得意とするシステムインテグレータです。

URL：http://www.east-inc.jp

ソフトバンク株式会社 http://tm.softbank.jp/



※パンフレット記載内容は、2015年9月現在のものです。